



LDAP システムの設定

Cisco Unified Communications Manager では、LDAP ディレクトリの設定を次のウィンドウで行います。

- [LDAPシステムの設定 (LDAP System Configuration)]
- [LDAPディレクトリ (LDAP Directory)]
- [LDAP認証 (LDAP Authentication)]

LDAP システムの情報を設定するには、次のトピックを参照してください。

- 「LDAP システムの設定値」(P.14-1)
- 「LDAP システムの情報の更新」(P.14-4)
- 「関連項目」(P.14-4)

LDAP システムの設定値

[LDAPシステムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウを使用して、LDAP 同期化を使用可能にし、LDAP サーバのタイプ、およびユーザ ID の LDAP 属性名をセットアップします。表 14-1 では、LDAP システムの設定値について説明します。関連する手順については、「関連項目」(P.14-4) を参照してください。

始める前に

このウィンドウにある [LDAPサーバからの同期を有効にする (Enable Synchronizing from LDAP Server)] チェックボックスの設定によって、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでエンド ユーザに変更を加えられるかどうかが決まります。LDAP の同期化はエンド ユーザにだけ適用され、アプリケーション ユーザには影響しません。LDAP の同期化の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ディレクトリの概要」(P.19-1) を参照してください。

エンド ユーザ データに関して、社内ディレクトリから同期される属性を [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで更新することはできません。これらの属性は、社内ディレクトリ自体の内部でだけ更新できます。更新された後に、再同期化を実行する必要があります。

LDAP ディレクトリの情報と LDAP 認証の設定値を変更できるのは、お客様の LDAP ディレクトリからの同期化が Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [LDAPシステムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウで使用可能にされている場合だけです。



(注) 社内ディレクトリとの同期を行う前に、Cisco Unified Communications Manager データベースにエンド ユーザが存在していた場合は、社内ディレクトリに対応するユーザ ID のないエンド ユーザが削除されます。たとえば、ユーザ *bob* と *sanjay* が Cisco Unified Communications Manager データベースに存在している場合でも、*bob* だけが LDAP ディレクトリに存在している場合は、*sanjay* には非アクティブのマークが付けられ、最終的にはガベージ コレクタ プログラムによって削除されます。



(注) DirSync サービスの LDAP ディレクトリ設定が作成されるか、LDAP ユーザの認証が有効になると、[LDAP システム情報 (LDAP System Information)] ウィンドウにある設定値は読み取り専用になります。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページで LDAP 同期を設定しても、社内ディレクトリに姓が登録されていないユーザは、Cisco Unified Communications Manager データベースと同期されません。Cisco Unified Communications Manager の管理ページにエラーは表示されませんが、ログ ファイルには、ユーザが同期されなかったことが示されます。

表 14-1 LDAP システムの設定値

フィールド	説明
[LDAP システム情報 (LDAP System Information)]	
[LDAP サーバからの同期を有効にする (Enable Synchronizing from LDAP Server)]	<p>お客様の LDAP サーバからのデータ同期化を使用可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>LDAP サーバとの同期化を使用可能にすると、次のような状態になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 社内ディレクトリと同期されないフィールド (属性) を除いて、エンド ユーザ データの内容は変更できません。エンド ユーザ データの例としては、ユーザの PIN などがあります。ただし、アプリケーション ユーザ データの内容はいつでも変更することができます。 LDAP ディレクトリの情報を変更できます。 LDAP 認証の情報を変更できます。 <p>LDAP サーバとの同期化を使用可能にしない場合 (同期化が無効になっている場合) は、次のような状態になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> LDAP ディレクトリの情報は変更できません。 LDAP 認証の情報は変更できません。

表 14-1 LDAP システムの設定値 (続き)

フィールド	説明
[LDAP サーバタイプ (LDAP Server Type)]	<p>LDAP サーバとの同期化が使用可能になっている場合は、このドロップダウン リスト ボックスで次のいずれかを選択できます。お客様の LDAP サーバのタイプに該当する値を選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Microsoft Active Directory] • [Microsoft Active Directory アプリケーションモード (Microsoft Active Directory Application Mode)] • [Netscape あるいは Sun ONE LDAP サーバ (Netscape or Sun ONE LDAP Server)] • [OpenLDAP]
[ユーザ ID 用 LDAP 属性 (LDAP Attribute for User ID)]	<p>LDAP サーバとの同期化が使用可能になっている場合は、ユーザ ID の LDAP 属性値を選択できます。ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの値を選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Active Directory の場合 : <ul style="list-style-type: none"> - [sAMAccountName] - [mail] - [employeeNumber] - [telephoneNumber] - [userPrincipalName] • Microsoft Active Directory アプリケーション モード <ul style="list-style-type: none"> - [uid] - [mail] - [employeeNumber] - [telephoneNumber] - [userPrincipalName] • Sun ONE LDAP サーバ、iPlanet、および OpenLDAP の場合 <ul style="list-style-type: none"> - [uid] - [mail] - [employeeNumber] - [telephoneNumber]

LDAP システムの情報の更新

LDAP システムの情報を更新する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1 [システム (System)] > [LDAP] > [LDAP システム (LDAP System)] の順に選択します。
 - ステップ 2 適切な設定値を入力します (表 14-1 を参照)。
 - ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックして、変更内容を保存します。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.14-4) を参照してください。

関連項目

- 「LDAP システムの設定値」(P.14-1)
- 「LDAP システムの設定」(P.14-1)
- 「LDAP システムの情報の更新」(P.14-4)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[ディレクトリの概要](#)」
- 「LDAP ディレクトリの設定」(P.15-1)
- 「LDAP 認証の設定」(P.16-1)
- 「アプリケーション ユーザの設定」(P.112-1)
- 「エンド ユーザの設定」(P.113-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[アプリケーション ユーザとエンド ユーザ](#)」